



患者総合支援センターから

平素より大変お世話になっております。

医療安全管理部長が赤坂副院長となり、新しい体制の元、患者総合支援センター一丸となり、地域の窓口として頑張っていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

また、患者総合支援センターは、患者さんとご家族の療養に関するサポートを担っています。今以上に、患者さんを中心としてシームレスな地域との連携も深め、地域包括ケアシステムの構築に努めてまいります。

どうぞ、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

地域医療支援病院として運営していく上で、紹介率・逆紹介率は大変重要な指標になります。地域医療機関の先生方と密に連携ができますようこれからも努めてまいります。地域連携活動として、訪問活動も強化をいたしました。紹介元医療機関に逆紹介するという当院の方針をしっかりと根付かせていきたいと思っております。今後とも取り組みを継続していきますので、よろしくお願いいたします。



患者総合支援センター入口



◆令和7年度 紹介率・逆紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介率 (%)	88.9	88.1	85.3	87.6	89.6	89.1	86.0	87.5	91.2	88.0	85.1	88.0
逆紹介率 (%)	86.5	87.7	88.8	87.2	95.0	92.2	90.7	89.0	102.3	92.4	94.0	118.0

◆令和7年度 共同利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
MRI	39	27	38	39	31	34	34	39	44	28	31	43
CT	25	31	37	48	37	46	45	43	37	31	27	30
RI (PET/CT)	4	6	6	6	8	10	6	8	5	3	6	8
RI (PET以外)	23	23	19	30	25	22	31	21	32	24	17	26
骨密度	11	5	10	9	6	3	11	14	6	12	3	9
合計	102	92	110	132	107	115	127	125	124	98	84	116



院長就任のご挨拶

院長 岩瀬 滋

このたび令和8年4月1日付で、病院長を拝命しました岩瀬滋です。私は10代目の院長ということになります。どうぞよろしくお願いいたします。

私の専門は消化器内科であり、所属している医局は横浜市立大学医学部消化器内科学教室になります。

藤沢市民病院には平成6年から2年間初期研修医として勤務し、その後平成12年から消化器内科医として勤務してまいりました。合計すると、今年で29年目になります。

藤沢市民病院の管理メンバーについてお知らせします。西川病院長が退任し、岩瀬が後任として着任しました。診療部長であった赤坂が副院長に昇任、後任の診療部長には酒井腎臓内科部長が昇任しました。また、峯事務局長が退任し、矢内事務局長が後任として着任しました。山岸副院長、鈴木非常勤副院長および駒野看護部長は変わらず、以上の7人体制で今年度の病院運営を行ってまいりますのでよろしくお願いいたします。

現在の医療情勢は厳しい局面を迎えており、病院としてはたくさんのやるべき課題を抱えていますが、まずは原点に戻り、『地域から必要とされる病院』であり続けることを最優先に掲げていきたいと考えております。

そのためには、当院のスタッフ個人個人が日々レベルアップし、セクションレベルで相互補完し、病院の総合力を高め続ける必要があります。そのうえで、患者さんを預かる覚悟をもち、何を求めているか、どのように役に立てるかを考え対応していかなばなりません。さらに、患者さんに関わっている地域の医療関係者と連絡を密にとり、地域の医療連携で患者さんを支え、安心できる地域医療に貢献したいと考えております。

こうした基本の上に、将来の医療やケアに備え、患者さんが大切にしていることや希望に基づき、医療者やご家族と繰り返し話し合って共有するアドバンス・ケア・プランニング（ACP）を推進し、患者さんの意思決定を支援していけるように努めてまいります。

また、救急医療、災害医療、小児周産期医療、がん診療においても信頼に足るべく高度なレベルを維持発展させていく所存です。

さらに医療安全に努め、医療DXを取り入れ、働き方改革を推進し、経営改善を図り、その先に西館等再整備事業を成し遂げ、10年後、20年後、30年後、40年後、50年後と継続して地域医療に貢献できる存在になるべく努めてまいります。

地域医療を支える皆様方には、今後ご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

病院幹部のあいさつ

副院長 山岸 茂

本年4月より、副院長兼医療技術部長に加え、臨床研修センター長を拝命いたしました山岸 茂と申します。これまでの臨床経験と地域医療への関わりを生かし、副院長として、また医療技術部長として、各部門が最大限に能力を発揮できるよう取り組んでまいります。

臨床研修センターは、臨床研修指定病院として、研修医が卒業後2年間で基本的な手技や知識を身につける初期臨床研修を行うために、本年度新設された組織です。

プロフェッションとしての専門性と倫理性を重んじ、その質を社会に対して責任をもって示していけるよう、教育と指導に尽力してまいります。

今後もチーム医療を柱に、患者さんに信頼され、地域の皆さまから選ばれる病院づくりを進めてまいります。引き続きご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

副院長 赤坂 理

2026年4月より副院長兼医療安全管理部長を拝命いたしました赤坂理と申します。

当院は高度急性期総合病院として、また地域医療支援病院として、地域の患者さんに質が高く切れ目のない医療を提供し、健康を守る役割の一翼を担ってまいりました。引き続き病診・病病そして介護連携の円滑化、情報共有の迅速化に努め、地域全体の医療提供体制の向上に尽力してまいります。

また、医療安全は患者さんの生命と信頼を守る基盤であり、地域連携の前提でもあります。

医療に携わっているすべての職種が気づきを共有できる風土を築き、患者さんに安心安全な医療を提供できるよう努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

副院長 鈴木 勇三

藤沢市医師会専務理事で市民病院 OB の鈴木勇三です。市民病院在籍中は、呼吸器内科と救急診療を担当していました。2022 年から非常勤副院長を務めさせていただき、病院管理メンバーで一番の古株になりました。2040 年とその先を見据えた新たな地域医療構想に向けて、急性期拠点機能を担う市民病院（地域医療支援病院）と、高齢者救急・地域急性期機能を担う市内各病院（在宅療養支援病院等）との役割分担、かかりつけ医とのより密な連携の推進と深化のために、市民病院と医師会との橋渡し役をしていきたいと思っております。今年度もよろしく願い申し上げます。

診療部長 酒井 政司

この4月より藤沢市民病院の診療部長を拝命しました酒井政司と申します。身の引き締まる思いとともに、その責任の重さを痛感しております。自身の生まれ育ったこの地域に恩返しするつもりで、2018年より腎臓内科/腎臓移植内科の科長として赴任し地域医療に携わってきました。当院は、地域の基幹病院として高度医療を担うとともに地域医療機関と連携し、地域医療の充実および発展を目指してきました。今後は診療部長として、診療部一丸となって質が高く心のこもった医療を提供し、地域完結型医療の推進に貢献していく所存です。微力ながら精一杯努めてまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどを賜りますようお願い申し上げます。



左から 駒野看護部長・鈴木副院長・赤坂副院長・岩瀬院長・山岸副院長・酒井診療部長・矢内事務局長

看護部長 駒野 美子

看護部長として、3年目を迎えました。今年も春のおとずれとともに新たな仲間を迎え、看護部では「観察力」「対話力」「つなぐ看護」を大切に、日々の看護を丁寧な積み重ねています。患者さん一人ひとりの思いや背景に寄り添い、安心して地域で暮らし続けられるよう、皆さまとともに歩んでいきたいと考えております。

また、専門看護師や認定看護師、特定行為研修修了者など、当院の多様な専門職の力を地域でも活かしていただけるよう、地域の皆さまとの交流や連携の機会をさらに広げてまいります。これからもよりよい看護の提供に努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

事務局長 矢内 健

このたび事務局長を拝命いたしました矢内 健と申します。

当院では「地域医療への貢献」「医療水準の向上」「心のこもった安心できる医療体制の構築」「時代の要請にあった病院運営」「患者さんとの信頼関係」この5つの基本理念のもとに病院を運営するため、医師や看護師をはじめ、全ての職員が一丸となった取組を進めています。

また一方では、地域完結型の医療提供体制の構築に向けた、地域の医療機関や福祉介護事業所等との一層の連携が求められています。

今後とも、関係機関の皆様との連携強化に向けた取組を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。